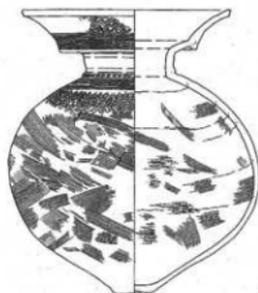


雲仙市文化財調査報告書 第3集

ryou  
**龍王遺跡Ⅲ**

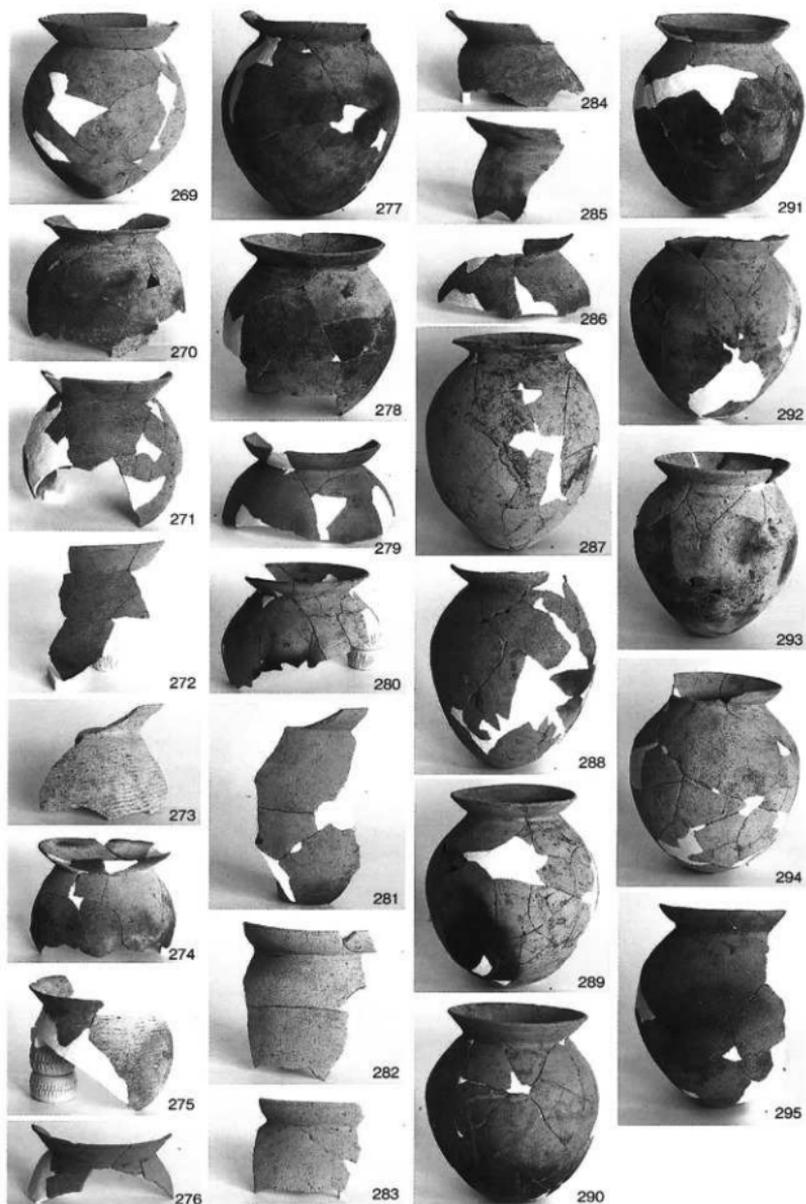
(縄文時代・古墳時代編)

—国見中部地区県営園場整備事業に伴う発掘調査—

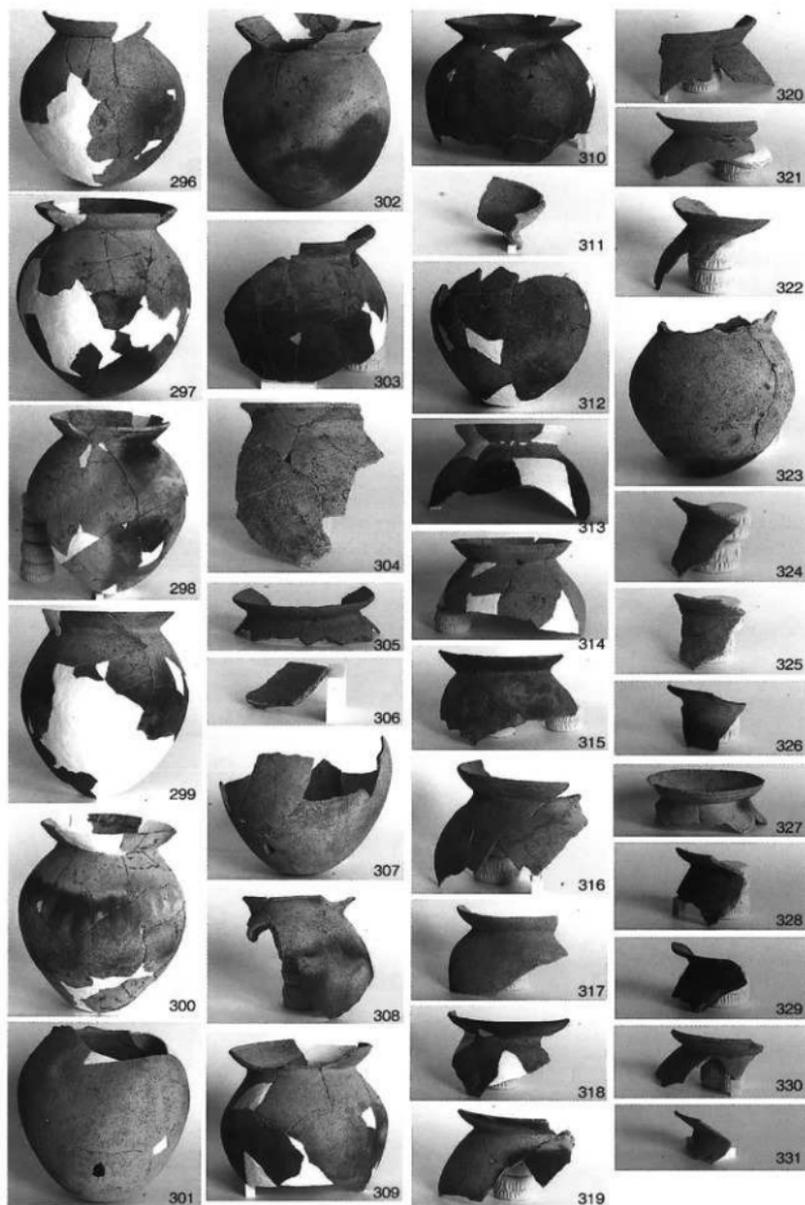


2008  
長崎県雲仙市教育委員会

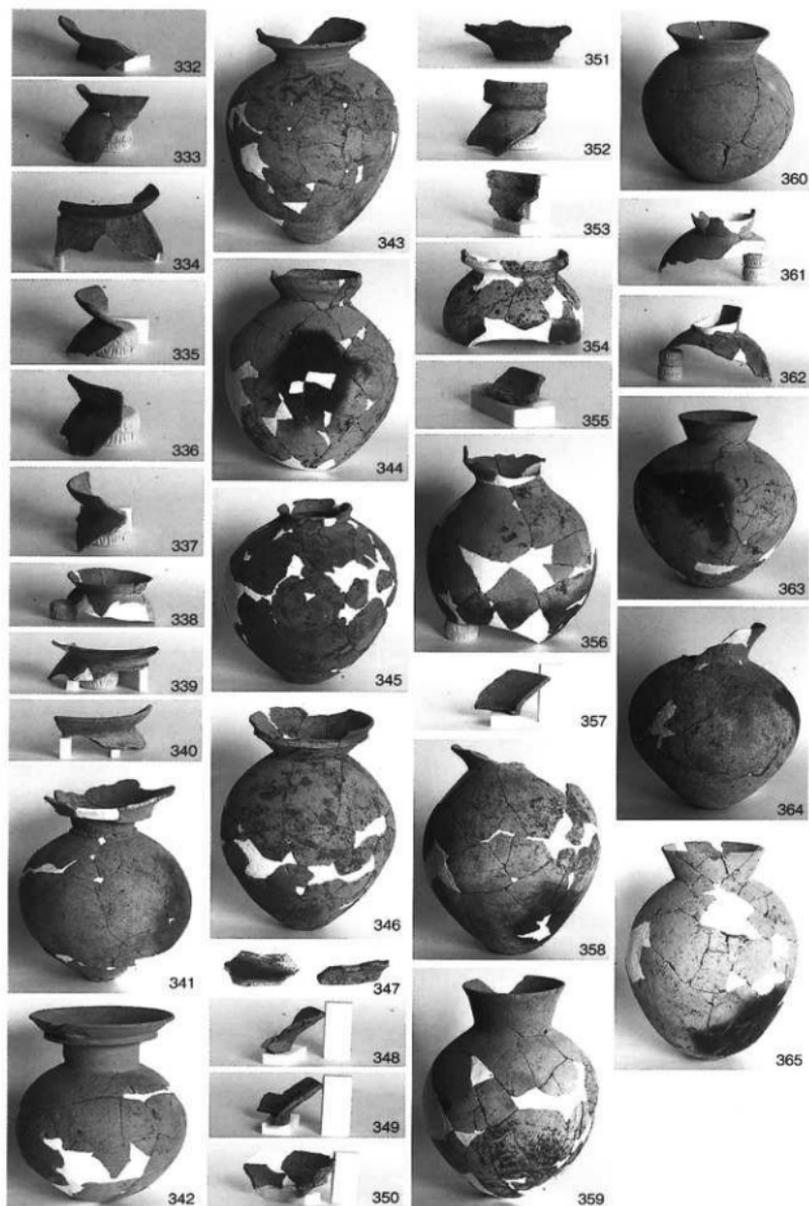




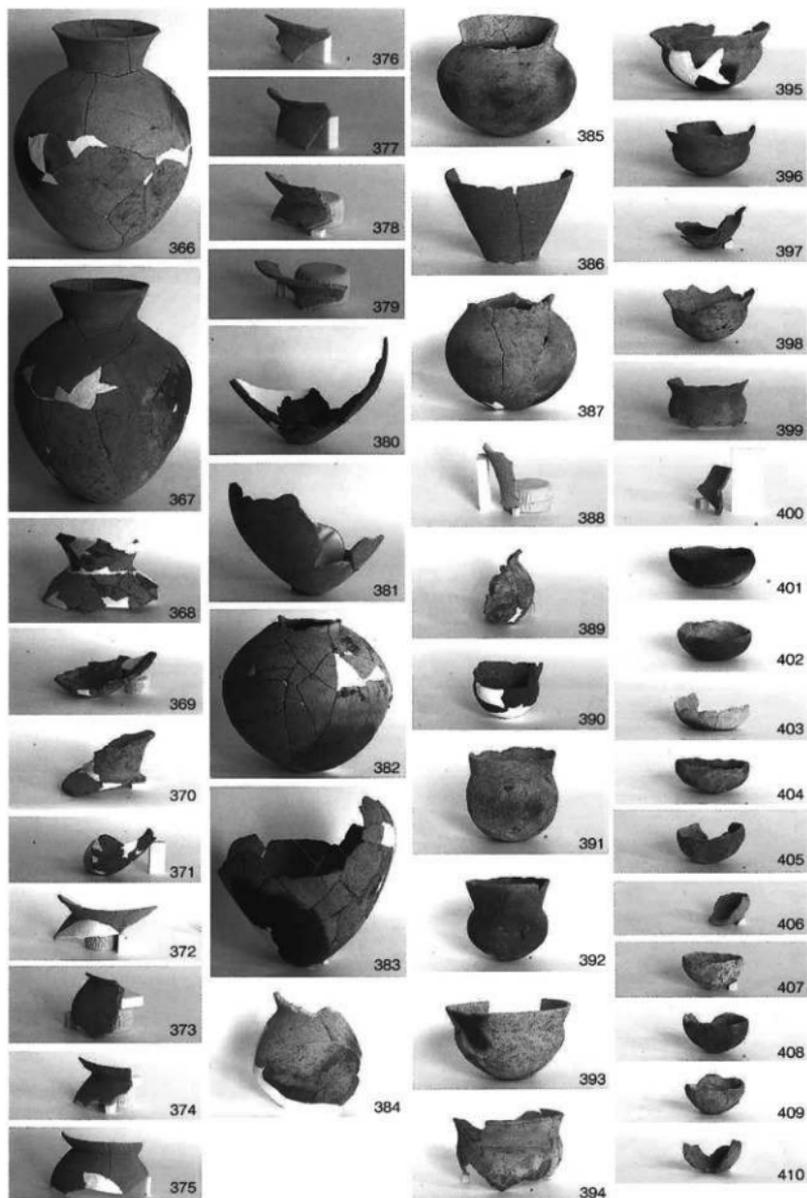
弥生時代～古墳時代土器 第99図269～第103図295



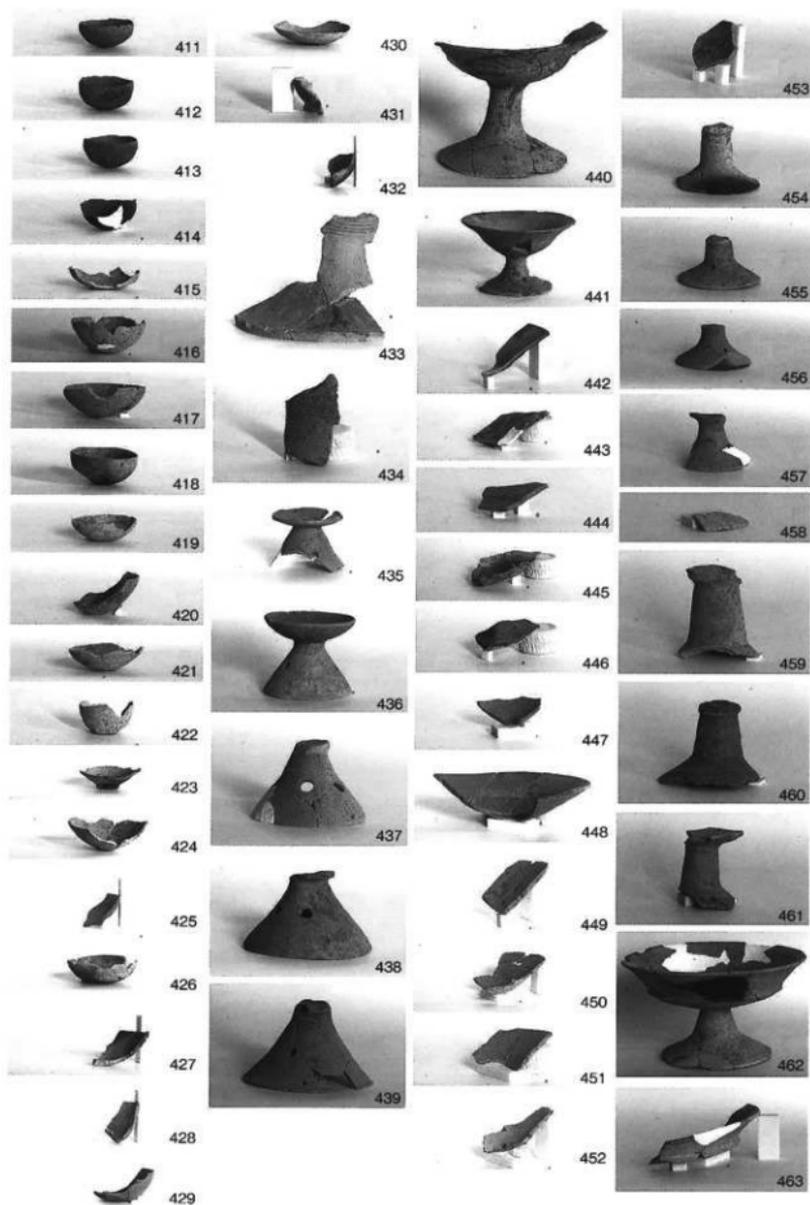
弥生時代～古墳時代土器 第103図296～第107図331



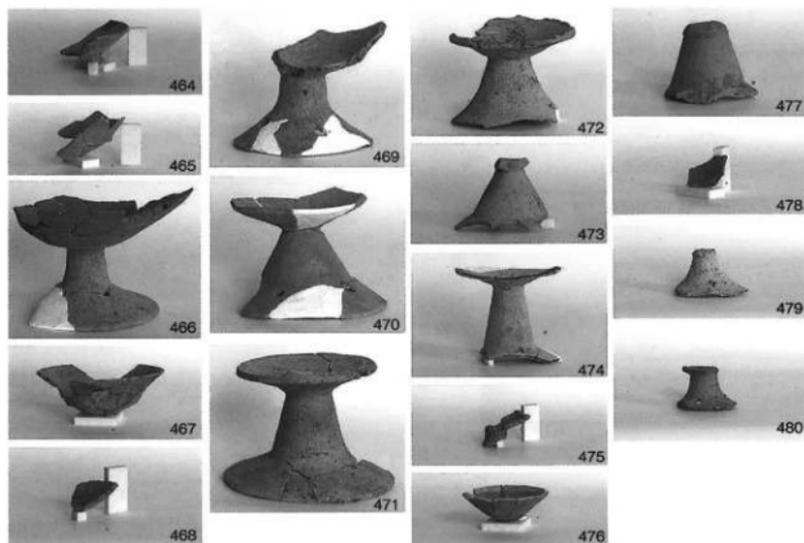
弥生時代～古墳時代土器 第107図332～第113図365



弥生時代～古墳時代土器 第113図366～第119図410



弥生時代～古墳時代土器 第119図411～第123図463



弥生時代～古墳時代土器 第123図464～480



右拡大



第113図366線刻部分



古墳時代出土土器① (庄内系甕)



古墳時代出土土器② (布留系甕)



古墳時代出土土器③ (二重口縁壺)



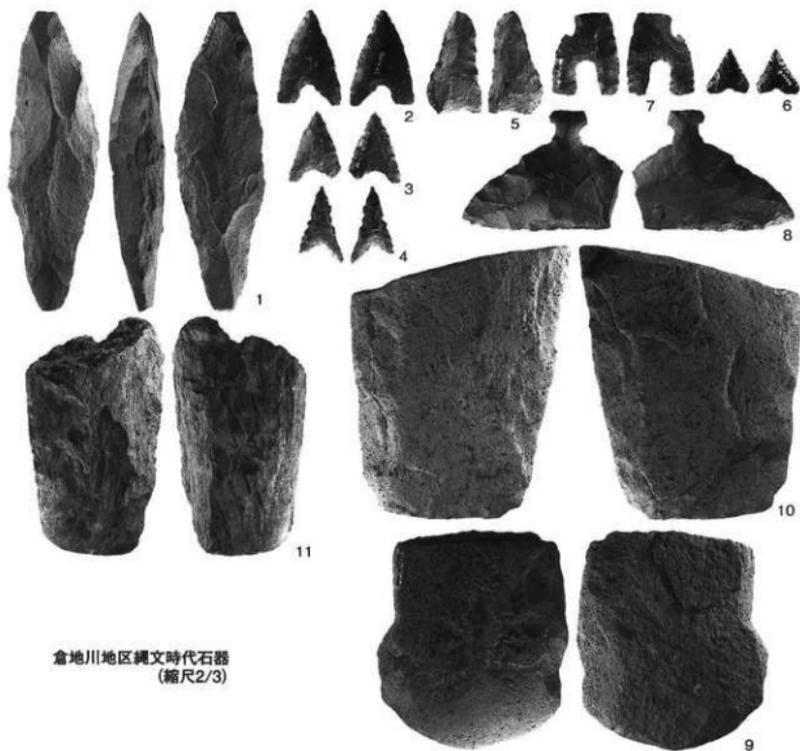
古墳時代出土土器④ (直口壺)



古墳時代出土土器⑤ (小型土器等)



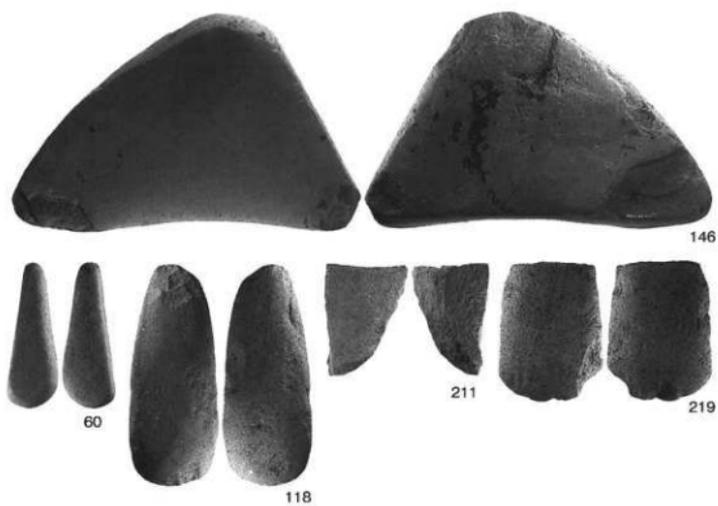
古墳時代出土土器⑥ (高環・器台)



倉地川地区縄文時代石器  
(縮尺2/3)



弥生時代～古墳時代住居跡出土石器 (縮尺1/3)



弥生時代～古墳時代住居跡出土石器（縮尺1/3）



## 2004 彼岸の頃

(龍王遺跡発掘調査 午後の一休み)

## 報告書抄録

ふりがな	りゅうおういせき すりー							
書名	龍王遺跡 Ⅲ							
副書名	縄文時代・古墳時代編							
巻次								
シリーズ名	雲仙市文化財調査報告書(概報)							
シリーズ番号	第3集							
編著書名	辻田直人・小野綾夏							
編集機関	雲仙市教育委員会							
所在地	〒854-0492 長崎県雲仙市千ヶ石町戊582番地						Tel 0957-37-3113 Fax 0957-37-3112	
発行年月日	西暦：2008年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
龍王遺跡	長崎県雲仙市 国見町 土黒 今出・川原田	42362	86-64	32° 52′ 8″	130° 17′ 12″	20040803  20050313	4,000㎡	圍場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
龍王遺跡	遺物包含地 集落跡	縄文時代早期 弥生～古墳時代	住居跡 方形環溝	押型文・熱系文土器 二重口緑壺		弥生終末から古墳 初頭の集落跡		
要 約	<p>龍王遺跡は国見町のほぼ中央にある島原半島最大の平野部に位置する。縄文時代から古墳時代までの複合遺跡であり、各時代で様々な遺構・遺物が見つかっている。縄文時代はおとし穴状遺構が9基、縄文早期の遺物包含層が検出されている。おとし穴状遺構は、逆茂木痕と考えられる小ピットを有する土坑が4つあり、これらはおとし穴である可能性が高い。早期の遺物包含層からは、石器や多種の押型文土器が複数出土している。弥生時代から古墳時代は、住居跡や県内では初例となる豪族居館と思われる方形環溝、それら各々の遺構に伴う土器が多数検出された。住居跡は、大型で円形を呈し、台付臺などの弥生後期終末に位置付けることができる土器を多数持つ弥生時代のもの、小型で方形を呈し、外面にタタキを施す庄内系や、内面調整にケズリを行う布留系の影響を受けた古墳初頭の土器が含まれる、古墳時代のものなどが確認できた。豪族居館と思われる方形環溝は、ほぼ同じ場所に2条検出されている。方形環溝の南西コーナー部分である30区からは、一括廃棄されたと考えられる古式土師器が大量に出土した。全てにおいて残存率が非常によく、接合によりほぼ完形に復元できたものばかりである。県内でもあまり例の見ない二重口緑壺が多数含まれており、その他にも多地域の技術を模したのもや、金雲母を大量に含む搬入品と考えられる土器も見られた。今概報では大まかではあるが住居跡・方形環溝出土の古式土師器編年を試み、庄内系並行期から布留系古相までに位置付けることができる。長崎県内では古式土師器の出土例が少なく研究が進展していなかったが、今回の報告により研究が大きく深化することは間違いなくであろう。今後詳細な分析や検討を行っていく必要がある。</p>							

## Abstract

Book title	Ryuou Site III							
Subtitle	the Age of Jomon era · the Tumulus period era							
Volume name	Report of an investigation Unzen-City cultural properties							
Volume	Vol 3							
Editors	Naoto Tsujita · Ayaka Ono							
Editorial organization	Unzen-City Board of Education, Nagasaki-Preecture, Japan							
Address	Bo-582, Chijiwa-cho, Unzen-City, Nagasaki-Preecture, 854-0492, Japan							Tel 0957-37-3113 Fax 0957-37-3112
Date of issue	31th March 2008							
Site name	Location	City code	Site nambaer	North latitude ° ' "	East longitude ° ' "	Investigated term	Investigated area (㎡)	Cause of investigation
Ryuou Site	Imaide · Kawaharada Hijikuro, Kunimi-cho Unzen-City, Nagasaki-Prefecuture, Japan	42362	86-64	32° 52' 8"	130° 17' 12"	03-Aug-04 } 13.Mar.05	4,000	field maintenance project
Site name	Site kind	Period	Main features	Main artifacts	Remarks			
Ryuou Site	Relic inclusion ground  Village mark	Early stage of age of Jomon  Tumulus period from Yayoi Era	Dwelling mark Square encirclement moat	Incipient-Jomon pottery decorated with dowel impressed patterns · Jomon pottery decorated with string-wrapped dowel impressions  Double rim-jar	Village mark on the old tomb beginning of age from Yayoi Era			

雲仙市文化財調査報告書 第3集

## 龍王遺跡Ⅲ

2008

発行 雲仙市教育委員会  
長崎県雲仙市千々石町戊582番地  
TEL0957-37-3113

印刷 株式会社インテックス  
長崎県長崎市幸町6番3号  
TEL095-826-2200

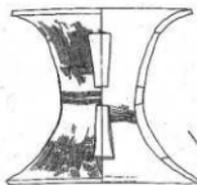
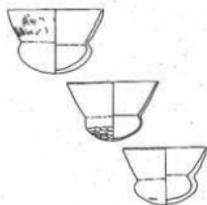
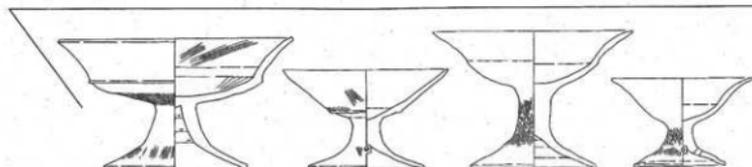


Report of an investigation Unzen City Cultural properties Vol.3

# RYUOU Site III

(the Age of Jomon era and Tumulus period era)

Excavation Report with Kunimi Middle district Prefectural Possession field maintenance project



March 2008

Unzen City Board of Education, Nagasaki Prefecture, Japan

